

平成24年度 中間評価表

鳥取県立鳥取工業高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	技術を研ぎ、身体を鍛え、心を磨くことをとおして、優れた知性や創造性を身に付けたたくましい力と、感動したり他者を思いやるあたたかな心を兼ね備えた、健全で個性豊かな人材の育成をめざす。	今年度の重点目標	１．確かな学力の育成 ２．豊かな人間性の育成 ３．キャリア教育の充実と生徒の進路実現
-------------------	--	----------	--

年 度 当 初				評 価 結 果 (10) 月		
評価項目	評価の具体項目	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 確かな 学力の 育成	① 授業改善と 学力の定着	○わかりやすい授業を実践し、学力を定着させる。 ○全体的な成績向上を図り、生徒個々の到達度を高める。 ○より一層、学習環境を改善し、生徒の基本的な学習習慣を確立させる。 ○教科指導の研究を充実させ、より一層、授業を改善する。	○授業評価アンケート等の分析に基づき、教材研究をより充実させ、生徒の理解度や意欲を高めさせるため、わかりやすい授業の工夫を引き続き行う。 ○基礎力診断テスト等により客観的に生徒の実態を把握し、小テストや課題、個別指導等により下位層の減少を図る。 ○「5S」、「あさひ」の取り組みの定着や教室の美化の徹底を図る。また、授業開始・終了の挨拶を徹底し、生徒の授業に取り組む姿勢をより一層高めさせる。 ○各種研修会への積極的な参加や公開授業の参観及び研究会の充実を図る。	○授業評価アンケート結果より、授業満足度は概ね良好。生徒の学習状況や理解度を把握することができ、授業改善に活かしている。 ○基礎力診断テストより、基礎力不足の層が増加している。この層の生徒に対して、意欲喚起が充分にできていない。 ○「5S」、「あさひ」の取り組みが定着しつつあり、授業開始・終了の挨拶や学習環境も改善されているが、まだクラスによって差がある。 ○各教科から公開授業計画が出され、予定通り実施されている。	C	○授業評価アンケートや基礎力診断テスト等の分析に基づき、小テストや課題等を課し、生徒の理解度と定着度を高める工夫を行う。 ○基礎力不足の層の生徒に対しては、特別課題や個人指導をより一層強化するとともに、つまずくポイントの手立てを講じるなどの工夫を行う。 ○教室の美化を徹底するため、各教科担任が授業で働きかけをするなど、「5S」、「あさひ」の取り組みをより一層徹底する。 ○各種研修会への参加や公開授業の参観を通して、授業力向上に向けての研鑽により一層努める。
	② 主体的な学習 態度と実践力の育成	○学習及び進路の目標を早期に確立させ、より一層、主体的な学習の習慣及び態度を育成する。 ○平時の自宅学習を習慣化させる。 ○読書への興味・関心を喚起し、読書が習慣化するよう、引き続き「朝読書」を充実させる。	○各種進路行事等の取り組みを引き続き進めるとともに、新たに1年生で進路講座を実施する。また、生徒・保護者との面談をより綿密に実施する。 ○個々の生徒に定期考査や資格・検定試験の目標を設定させる。また、小テストや課題を日常的に課すなどして自宅学習を促す。 ○図書館だよりの発行や身近なテーマの資料展示等、本の紹介について、より一層の充実を図る。	○従来の進路行事等の取り組み以外に、新たに、PTA懇談時のハローワーク職員・生徒・保護者の3者個人相談会や1年生キャリア塾等を実施したことで、今まで以上に進路意識が高まっている。 ○生徒に目標を設定することが充分にできていない。自宅学習調査結果より、2年生及び工業学科1年生は学習時間が増加傾向にあるが、3年生及び理数工学科1年生は減少している。また、クラス差以上に個人差が大きく、二極化の傾向が見られる。 ○朝読書が定着した。図書館の貸出冊数は耐震工事の関係で昨年度より減少したが、高い貸し出し冊数を維持している。	C	○補習や各種模試、進路行事の取り組みを引き続き進めるとともに、生徒・保護者との面談をより綿密に実施する。 ○各種資格・検定の受検をさらに奨励し、進路目標の早期確立や学力向上の一助とする。また、課題や小テスト、個別具体的な学習指導を実施するなどし、自宅学習を促す。 ○朝読書の習慣化と自主的な読書への取り組みをさらに進める。
2 豊かな 人間性の 育成	① 互いを尊重 する態度と 社会性の涵 養	○生命の大切さや人権を尊重することの大切さを考えさせる。また、支援を要する生徒の把握等、個々の生徒の理解や望ましい集団づくりを充実させる。 ○教職員自らが研修等をおとして自己を振り返り、学ぶ姿勢をもち続ける。	○保育実習やシニア体験等を充実させる。 ○ハイパー・QU調査の実施、活用プランの作成及び活用の徹底を図る。 ○いじめ等に関するアンケートを実施し、問題を早期に発見・対応するとともに、関係職員との連携を強化する。また、必要に応じて、専門機関との連携を図る。 ○校外の人権教育研修への参加呼びかけの工夫を図り、積極的に参加する意識を高める。	○保育実習体験を通して生命の大切さや人権を尊重することの大切さを考えることができた。なお、12月に性教育LHRを実施する予定。 ○2学期にハイパー・QUを実施する予定。 ○いじめ等に関するアンケートを実施し、問題を早期に発見・対応できるよう努めている。6月にいじめアンケートを実施し、いじめ対策委員会で検討した。また、いじめマニュアルの見直しも行った。なお、11月に第2回いじめアンケートを実施する予定。 ○人権教育校外研修「一人一研修」の取り組みがまだまだ進んでいない。	C	○来年度も、保育体験実習を継続したい。 ○ハイパー・QUの活用を徹底する。 ○日常から生徒の様子を観察し、気になる生徒には早めに面談等を行う。 ○校外研修の情報提供と参加の呼びかけを継続的に行なう。
	② 健全な心身 と社会貢献 精神の育成	○基本的生活習慣を確立させるとともに、協調性、責任感及び他者の話を聞くための適切な態度を育成する。 ○生徒の地域社会とつながりを深める機会を積極的に設け、他者を思いやり、尊重する心や態度を育成する。 ○部活動をはじめ生徒会活動に積極的に取り組ませる。 ○交通安全のマナーを引き続き守らせ、安全に通学させる。	○「5S」、「あさひ」の取り組みの定着、時間や提出物の締切の厳守を徹底させるため、日々の授業等で指導の充実を図る。 ○テクノボランティア等への理解を深めさせ、積極的な参加を促す。 ○部顧問との連携を図り、生徒の部活動の状況を把握し励ます。 ○登校指導及び交通安全教室を実施する。	○「5S」、「あさひ」の取り組みが定着しつつあるが、時間や提出物の締切厳守等、クラスによって差がある。 ○夏季テクノボランティアに12名(S・E・B科)参加するなど、各種ボランティア活動に積極的に参加した。 ○部活動の大会結果をHPで紹介した。 ○自転車安全教室を開催し、交通安全について啓発活動を行った。	C	○「5S」、「あさひ」の定着、時間や提出物の締め切り厳守等について、指導をより徹底していく。 ○ボランティア募集の情報を発信し、参加を奨励する。 ○実施後のHPでの報告をより早く行えるようにする。 ○朝の登校指導を継続して、安全に通学できるよう指導していく。
3 キャリア 教育の 充実と 生徒の 進路実現	① 専門的な知識・ 技術の習得	○幅広い工業分野の基礎知識や技術・技能の一端を習得させ、幅広い工業分野に対応できる人材を育成する。 ○生徒一人一資格(一検定)の取得を実現させ、資格取得者数を増加させる。 ○「5S」は様々な活動の基礎・基盤を形づくる重要不可欠な改善活動であり、より一層、定着させる。 ○企業との連携事業を充実させ、生徒の知識や技術・技能を育成する。 ○「高校生ものづくりコンテスト」において、上位大会へ出場させる。	○工業の基礎・基本を総合的に習得させるため、科目「工業技術基礎」(共通実習)の指導の充実を図る。 ○直近の資格・検定の案内や「国家資格・検定取得ガイドブック」の有効活用の徹底を図る。 ○実習、課題研究、理数工学Ⅰ、理数工学探究の時間を中心に、「5S」の必要性を理解させ、実践できる力の育成を図る。 ○インターンシップ、企業見学、鳥工版デュアルシステム等を実施するとともに、内容の充実を図る。 ○技術指導を早期に実施することにより、技術・技能の育成を図る。	○「工業技術基礎」(共通実習)の授業では、各専門科の特色を活かして、基礎的・基本的な内容をしっかり指導できた。しかし、レポートの内容、提出期限、時間厳守、集合場所の確認等について、指導の徹底に課題がある。 ○「国家資格・検定取得ガイドブック」に則り、適切な時期に案内することができた。また、早朝・放課後補習等を実施しており、取得者数は増加傾向にある。 ○「5S」について、必要性を理解させることはできたが、実践力の育成に課題がある。 ○「インターンシップ」では、県東部の企業61社に協力いただき、工業学科2年生151名が参加。協力企業数不足により、数社の企業に多数の生徒を受け入れていただいている現状がある。「鳥工版デュアルシステム」では、参加生徒が機械科3名、制御・情報科6名、電気科6名、協力企業数が5社と、昨年度比3名増・1社増であった。「企業見学」では、企業16社、専門学校2校、4年制大学2校、建設現場4件、施設見学2件と、昨年度とほぼ同様の実施状況であった。 ○ものづくりに関する早期技術指導は人材確保が難しい状況にあり、技術・技能指導ができなかった。	C	○「工業技術基礎」(共通実習)では、全体説明会のみでなく、年度の早い時期に各科による事前指導を実施する。 ○「国家資格・検定取得ガイドブック」の活用を継続して実施することにより、一人一資格(一検定)を実現する。 ○「5S」について、清掃等、実習終了5分前の実施を徹底する。また、実践力の向上のために、「5S」の活用について、先進校視察を計画している。 ○インターンシップでは、一部企業の負担を軽減するために、新規企業開拓を実施する。 ○授業等で、ものづくりについてCPRすることにより人材確保に努める。
	② 職業意識の 育成と進路 指導の徹底	○生徒の進路意識・職業観・勤労観をより一層高揚させるとともに、生徒の成長を支援する。 ○進路決定の実現に向けて、進路意識の高揚を促し、指導を充実させる。 ○社会人として求められる能力・態度を育成する。	○企業見学、インターンシップ、鳥工版デュアルシステム等の企業と連携した事業及び資格取得のための補習の充実を図るとともに、生徒が進路情報を迅速に入手できる環境を整備する。 ○面談・面接練習のより一層の充実を図り、特に3年生に対しては、面接練習を強化する。 ○校内外の進路行事等を積極的に利用させる。 ○挨拶、言葉遣い、身だしなみ等の指導を丁寧に行う。 ○ものづくり講演会・探検隊、先輩を囲む会等を実施する。	○企業見学、インターンシップ等、企業と連携した事業は概ね予定通り実施できた。資格補習、進学補習も予定通り実施中である。また、求人票等の進路情報を迅速に入手できる環境の整備に努めた。 ○校内外の面接指導を強化することで、3年生の多くの生徒が面接に臨む意識を向上させた。 ○就職ガイダンスなどの外部行事に参加した生徒が20名から73名と大幅に増えた。 ○挨拶、身だしなみ等は適切な指導により改善されつつある。 ○ものづくり探検隊は4社実施できた。	B	○インターンシップの科別報告会をもとに、次年度に向け、より充実した取り組みとしていく。 ○進路未決定の生徒に対して適切な進路指導を行う。 ○携帯のマナー指導を、より一層徹底する。
	③ 地域や産業 界との連携 強化	○企業が求める人材や地域の担い手となる人材を育成する。 ○地域や小学校、中学校等へ積極的に情報発信し、鳥工の教育について、理解を深めてもらう。 ○地域と連携した貢献活動を行う。 ○保護者との連携を密にし、生徒の指導・支援を充実させる。	○インターンシップや鳥工版デュアルシステム、社会人講師等の事業を実施し、産業界との連携をより一層深める。 ○HPの活用や出前授業、科学広場等の実施により、鳥工を広くPRしていく。 ○「高校生マナーアップさわやか運動」や「テクノボランティア」、「津ノ井地域文化祭」、「技能祭」等へ参加し、地域との連携を強化する。 ○科別PTAや鳥工テック、津ノ井地域懇談会などを開催し、保護者や地域との連携を強化する。	○インターンシップや鳥工版デュアルシステム、社会人講師等の事業を計画通り実施し、産業界との連携が深まっている。 ○HPを頻繁に更新することで、学校の情報発信が活発化している。 ○「高校生マナーアップさわやか運動」や「桜ヶ丘グリーンゾーン」活動での清掃活動を通して、地域との連携に努めた。 ○科別PTAでは例年通り多くの保護者の参加があり、本校における教育活動への保護者の理解が得られるよい機会となった。	B	○HPを頻繁に更新し、地域や保護者へのPRを積極的に行う。 ○「高校生マナーアップさわやか運動」や「桜ヶ丘グリーンゾーン」活動、また科別PTAへの保護者の参加を促すため、HPやメール配信を活用する。

注) 5S:整理・整頓・清掃・清潔・躰 あさひ:挨拶・作法・人の話を聞く

評価基準 A:十分達成 [100%] B:概ね達成 [80%程度] C:変化の兆し [60%程度] D:まだ不十分 [40%程度] E:目標・方策の見直し [20%程度]